

そうやって、私たちは 生き承らえたたののです



ウクライナの避難者の声から言葉の「今」を考える国際フォーラム

戦争がもたらす破壊への脅威は、私たちが日々使っている言葉の意味を次第に変容させます。戦火を逃れる途中に人々が発した言葉は、その現実をリアルに表します。

このフォーラムでは、新刊証言集『戦争語彙集』を通じて紛争と「平和」の現在地を見つめ直します。朗読、音楽、対話、そして世代と地域を超えた考察からニュースの報道とは異なる戦争と言葉の深い結びつきを感じ、考え、次代を担う若者たちを含む皆と分かち合いたいと思います。-ロバート キャンベル

入場無料

事前申し込み制

※参加申し込みは裏面QRコードから

2024.1.18 Thu 14:40 開場 / 15:40 開演

会場：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

対象：早稲田大学学生、教職員、一般

使用言語：日本語、英語(同時通訳あり)

主催：早稲田大学国際文学館、独立行政法人国際交流基金

協力：岩波書店

問い合わせ先：早稲田大学国際文学館 wihl-koubo@list.waseda.jp



Artist- Anastasiia Avramchuk / Photograph - Oleksandr Avramchuk

そうやって、私たちは生き永らえたのです

戦争は、人が言葉に抱く意味を変えてしまいます。暴力を前に言葉は武器となり、人を守るシェルターともなります。

ウクライナの詩人オスタップ・スリヴィンスキー氏は、ロシアからの侵攻に際して、ボランティアとしての支援活動を行うかたわら、日々使われている言葉の変化に気づき、避難した多くの人々の声に耳を傾けました。避難者による証言77篇を1冊の辞書に見立てて編み、文芸ドキュメントとして出版しました(СЛОВНИК ВІЙНИ 2023年5月刊)。すでに欧州を中心に10数か国語に翻訳され、2023年末には日本語でも読めるようになりました(『戦争語彙集』岩波書店、2023年12月22日刊行)。

このフォーラムは、今回初来日されるスリヴィンスキー氏を招き、音楽に合わせた原文と日本語訳による朗読、ウクライナ出身の学生と日本人学生らによる読書トーク、日本の研究者と共に戦時下の言論と言葉の変わりようについて語り合う、全3部構成でお届けします。

戦争の言葉、と聞いてあなたはどんな語彙を想像しますか？

参加申し込みは、
右記 QR コードから



Program

2024.1.18 Thu

15:40 開会挨拶、はじめに

16:05 **(第1部)** 40分

著者、俳優、学生による朗読

朗読：オスタップ・スリヴィンスキー
(詩人、『戦争語彙集』著者)

紺野 美沙子(俳優)

早稲田大学学生

演奏：溝口 肇(チェリスト、作曲家)

モデレーター：ロバート キャンベル
(早稲田大学特命教授・
日本文学研究者)

休憩

17:00 **(第2部)** 35分

学生の対話

登壇：ウクライナほか留学生を含む
早稲田大学学生

オスタップ・スリヴィンスキー

ロバート キャンベル

17:35 **(第3部)** 60分

著者との座談会

登壇：オスタップ・スリヴィンスキー

小森 宏美

(早稲田大学教育・総合科学学術院教授/
ロシア・東欧近現代史)

堀江 敏幸

(早稲田大学文学学術院教授・作家)

ロバート キャンベル

18:35 閉会

Access

- 早稲田大学国際会議場 東京都新宿区西早稲田1-20-14
- ・JR山手線/西武新宿線 高田馬場駅 徒歩20分
- ・東京メトロ東西線 早稲田駅 徒歩10分
- ・都営バス(学バス) 高田馬場駅~西早稲田 徒歩5分
- ・東京さくらトラム(都電荒川線) 早稲田駅 徒歩5分
- ・東京メトロ副都心線 西早稲田駅 徒歩20分